

# 若手弁護士の 談話室

ENTRANCE

## Connecting The Dots と弁護士実務



坪井 僚哉 (72期)

### 1 はじめに

法律事務所アルシエンに所属しております坪井僚哉と申します。今回、テーマは自由でよいとのことで執筆の機会を賜りましたので、自己紹介も兼ねて、私のやや特異な経歴と、それがどのように弁護士実務で役立っているかのお話をさせていただきます。

### 2 経歴、および点と線

本稿の題名は、スティーブ・ジョブズが講演で発した有名な言葉からとったもので、大要、紆余曲折の人生を送る中で得た経験が思いもよらぬところで役に立つことがある、といった意味のものであります。私はもともと高校一の落ちこぼれでしたが、プロボクサーと弁護士になるという夢を持っていました。そして、プロボクサーとして後樂園ホールのリングで四度戦ったのち、司法試験の勉強を始めました。ファイトマネーを切り崩しながらの今時珍しい苦学生でしたが、最初の受験で無事合格し、その後修習を一年間遅らせ、バックパッカーとして世界一周、野宿をしながらバイクで日本一周をし、弁護士になりました。

プロボクサーだった時分、私のトレーナーを務めてくださった坂本博之さんは、幼い頃に虐待を受け、児童養護施設で育ったもと名ボクサーです。坂本さんは、どんなに打たれても不屈の闘志で前へ前へと出て相手をなぎ倒すスタイルで平成のKOキングと呼ばれ、四度の世界タイトルマッチは今でもボクシングファンの中で語り草となっています。そんな坂本さんの下で、積極的に攻めながらも相手をじっくりと観察し、相手のミスを誘い、弱点を晒した瞬間にそこを思い切り打ち抜き一気にラッシュをかける、というボクシングスタイルを確立させました。また、ボクシングの技術だけでなく、どんな逆境でも諦めず戦い抜く闘志や、本物のプロとは何か等、道徳観を学びました。

それらは弁護士実務でも大いに役立っています。例えば、複数人の子の親権を争う離婚事件で父親側に立ったときのことであります。状況は圧倒的に不利で、周囲の弁護士からは「親権獲得は99.9%不可能だ。」と言われました。

しかし、依頼者やその親族の方々から話を聞くにつれ、依頼者のためにも、子ども達のためにも、絶対に依頼者に親権を獲得してほしいと強く思いました。ハードな事件でしたが、勝負所と見るや関係者の陳述書を合計約50枚書き上げるなど、最大限の力で戦い抜きました。その結果、子ども達全員の親権を獲得することに成功し、その他の条件を含め全面的に依頼者の希望どおりにすることができました。プロボクシングを通して培った、勝負所を見抜いて一気に攻勢に転じる勘や、石に齧りついても執念深く戦い抜く闘志が活かしたのは間違いありません。

また、日本一周や世界一周の旅をしていると、多くの人々と触れ合うこととなり、多種多様な体験をすることとなります。日本一周中は、日本各地で知り合った方と打ち解け、家に泊めてもらうなどしました。世界一周中においては、市場での値段交渉といった平和的なものだけでなく、インドのバラナシで銃の携帯をちらつかせる偽警官に絡まれ、口八丁手八丁で切り抜けるといった危険なものもありました。そのような経験をしていると自然と胆力や交渉力、コミュニケーション能力がついてくるもので、今ではどんな相手でも物怖じせず対峙することができます。

私は弁護士になるまで遠回りをしましたが、その道中で得たdots(点)は、今では線となり、弁護士としてのバックボーンとなっています。弁護士は全ての人生経験を活かせる素晴らしい職業であると実感するとともに、一人の弁護士として依頼者のために戦えることを誇りに思います。

### 3 Stay hungry, stay foolish.

無論、成功体験ばかりではありません。若輩者ゆえに無力感に苛まされることも少なくなく、謙虚に経験を積み、精進することの重要性を日々感じています。これからも決して驕ることなく、謙虚に各先輩方の背中を追い、ハングリーかつ愚直に研鑽を重ね、弁護士としての実力を涵養していく所存です。もとより浅学菲才の若輩者ではございますが、倍旧のご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。